

2017年11月22日

各 位

会 社 名 ブライトパス・バイオ株式会社
代表者名 代表取締役社長 永井 健一
 (コード番号：4594 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取締役管理部長 酒井 輝彦
 (T E L . 0 3 - 5 8 4 0 - 7 6 9 7)

(追加)

「第三者割当による行使価額修正条項付第12回新株予約権（行使許可条項付）及び第13回新株予約権（行使条件付・行使許可条項付）の発行に関するお知らせ」の一部追加について

本日開示いたしました「第三者割当による行使価額修正条項付第12回新株予約権（行使許可条項付）及び第13回新株予約権（行使条件付・行使許可条項付）の発行に関するお知らせ」の内容に追加がございますので、以降のとおりお知らせいたします。

添付書類・・・補足資料「新株予約権の発行に関するご説明」

以上

新株予約権の発行に関するご説明

2017年11月22日

ブライトパス・バイオ株式会社

本資料の取扱いについて（免責事項）

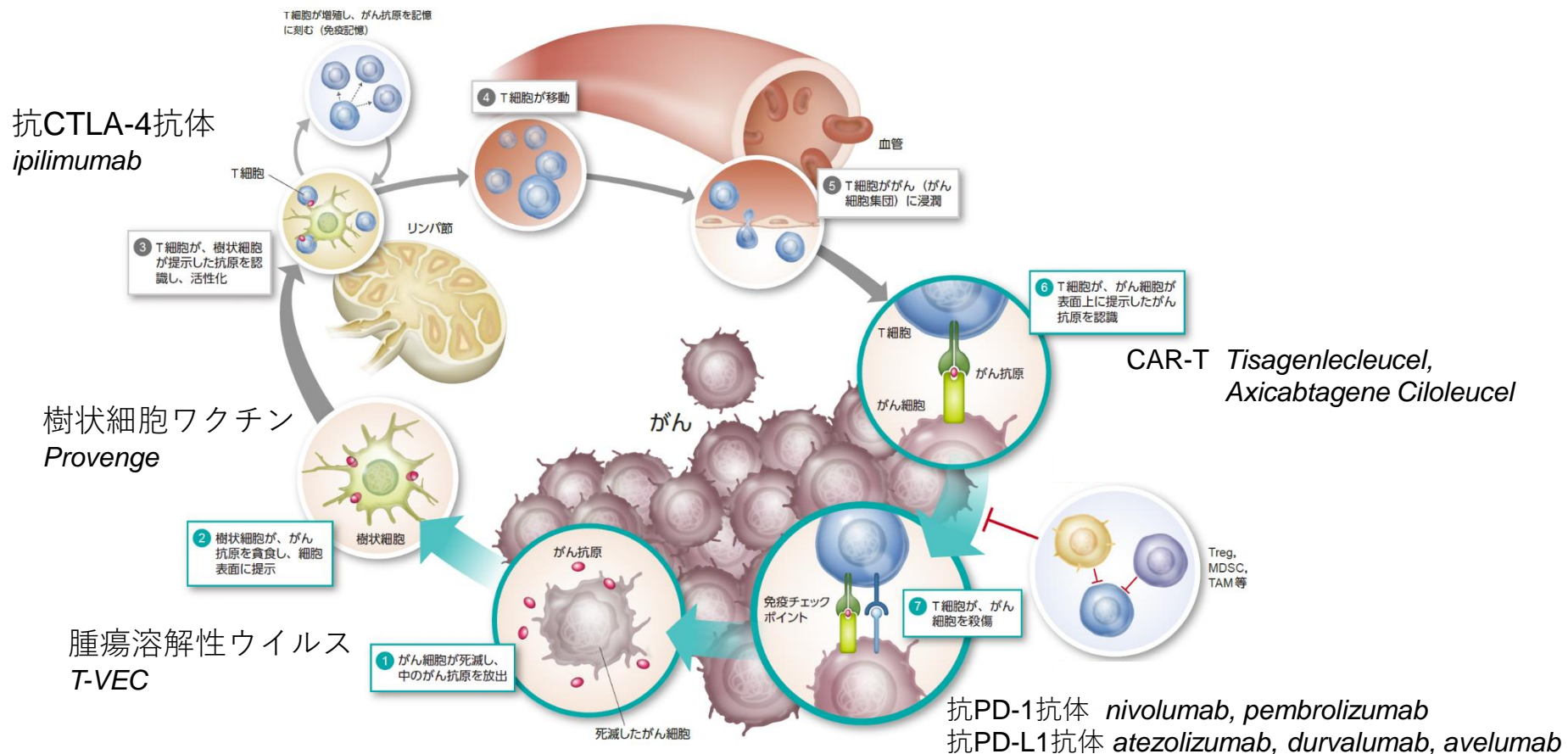
- 本資料には、当社グループに関連する見通し、将来に関する計画などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 本資料は、第12回及び第13回新株予約権発行に関して一般に公表するための補足資料であり、一切の投資勧誘またはそれに類似する行為のために作成されたものではありません。実際に投資を行う際には、ご自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 研究開発中の医薬品に関する情報を記載しておりますが、広告宣伝、医学的アドバイスを目的にしているものではありません。
- 本資料に記載された情報につきまして、予告なく変更される可能性があります。本資料に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

開発領域






がん免疫治療薬の市場規模は、2025年に約10兆円規模まで拡大

出典：Nature Reviews Drug Discovery 16, 83–84 (2017)

がん免疫のサイクルと上市されたがん免疫治療薬



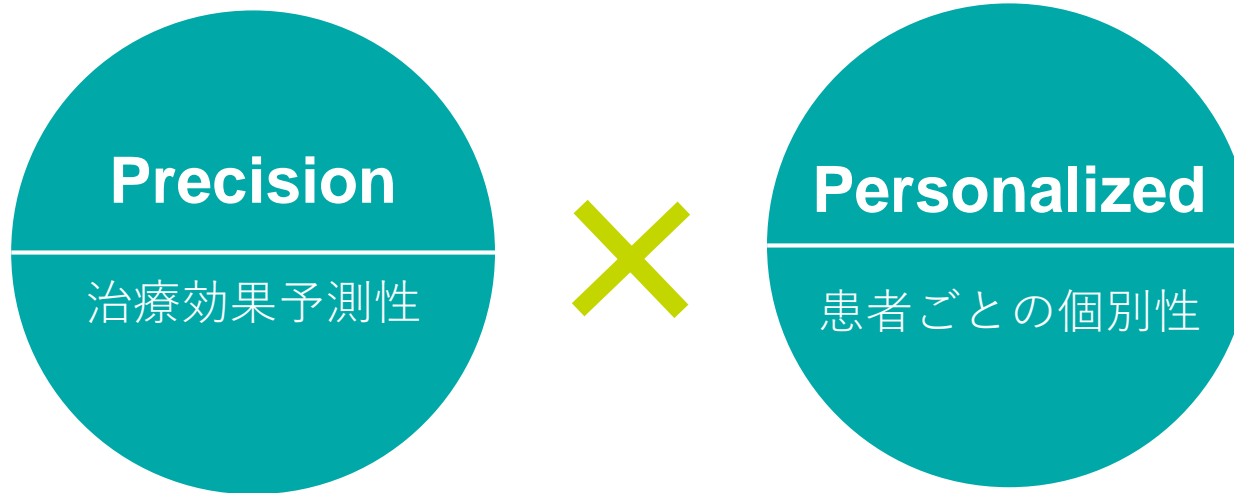
現在のパイプライン

| プロジェクト | 適応症 | 地域 | 基礎研究 | 非臨床試験 | 第Ⅰ相臨床試験 | 第Ⅱ相臨床試験 | 第Ⅲ相臨床試験 | 上市 |
|---|--------------|----|--|-------|---------|---------|---------|----|
| ITK-1 薬剤選択型ペプチドワクチン 富士フイルム(株)へ導出 | 前立腺がん | 日本 |  | | | | | |
| GRN-1201 4種ペプチドワクチン | メラノーマ | 米国 |  | | | | | |
| | 非小細胞肺がん | 米国 |  | | | | | |
| GRN-1301 ネオアンチゲンワクチン | 非小細胞肺がん | - |  | | | | | |
| iPS-T iPS細胞由来 再生T細胞療法 | EBウイルス由来リンパ腫 | - |  | | | | | |

免疫チェックポイント抗体併用
複合的がん免疫療法

がん免疫療法のリーディングカンパニーへ

これからのがん免疫療法のテーマ



開発テーマ

- ITK-1 テーラーメイド投与方法
- GRN-1201 免疫チェックポイント抗体併用
- GRN-1301 ネオアンチゲン・ターゲットの最初の取り組み
- iPS-T 細胞医薬モダリティの組み込み

探索テーマ

- ネオアンチゲン・ターゲットの完全個別化への対応
- 免疫チェックポイント抗体に組み合わせる免疫チェックポイント抗体
- 免疫細胞死誘導

2017.10.27
国立がんセンターとの
完全個別化がん免疫療法
の共同研究開始

ファイナンスの背景と主な目的

- テーラーメイド型ペプチドワクチンであるITK-1の第Ⅲ相臨床試験は2015年上半期の中間解析、2016年上半期の症例登録完了を経て、観察期間へと入り、キーオープンに向けたデータの収集・解析が進んでいる状況
 - 4種のがん抗原ペプチドから構成されるGRN-1201については、2016年5月24日に決議した第9回新株予約権の発行・行使により研究開発資金を調達し、免疫チェックポイント抗体との併用での第Ⅱ相臨床試験を市場規模の大きい非小細胞肺癌を対象に米国で開始
- がん免疫療法のリーディングカンパニーとしての地位を確立すべく、
- ✓ がん細胞に限定的に発現し、抗原性の強いネオアンチゲンをターゲットとするペプチドワクチンGRN-1301の研究・開発
 - ✓ iPS技術を応用して作製されたがん排除能の高いT細胞であるiPS-Tの研究・開発
 - ✓ その他更なるパイプラインの創製・獲得
- を主たる目的として資金を調達することを決定

本件ファイナンスの資金使途

| 具体的な使途 | 想定金額（百万円） | 支出予定時期 |
|-----------------------|-----------|------------------|
| ① がん免疫治療薬領域における研究開発費用 | 3,014 | 平成30年10月～平成33年3月 |
| ② その他事業運営資金 | 1,000 | 平成30年10月～平成33年3月 |
| 合計金額 | 4,014 | |

新株予約権の発行条件

| | 第12回新株予約権 | 第13回新株予約権 |
|---------------------------------|--|---------------------------------------|
| 発行手法 | クレディ・スイス証券株式会社に対する第三者割当方式 | |
| 資金調達額 (差引手取概算額) | 4,014百万円 | |
| 調達予定額 ⁽¹⁾ | 3,225百万円 | 806百万円 |
| 発行株数 (潜在希薄化率) ⁽²⁾ | 4,480,000株 (12.0%) | 1,120,000株 (3.0%) |
| 行使可能期間 | 24ヶ月 | |
| 発行価額 (総額) | 12百万円 | |
| 行使価額の修正 | 前日終値の92% ⁽³⁾ に毎日修正 | |
| 下限行使価格 | 432円 (2017年11月21日東証終値の60%) | |
| 行使のコントロール | 【行使許可型】 クレディ・スイスは行使する最大新株予約権数と行使期間を定めたリクエストを発行体へ通知し、発行体が許可した場合のみ行使が可能 | |
| 行使可能条件 | なし | ITK-1の第Ⅲ相臨床試験における主要評価項目が達成された場合のみ行使可能 |

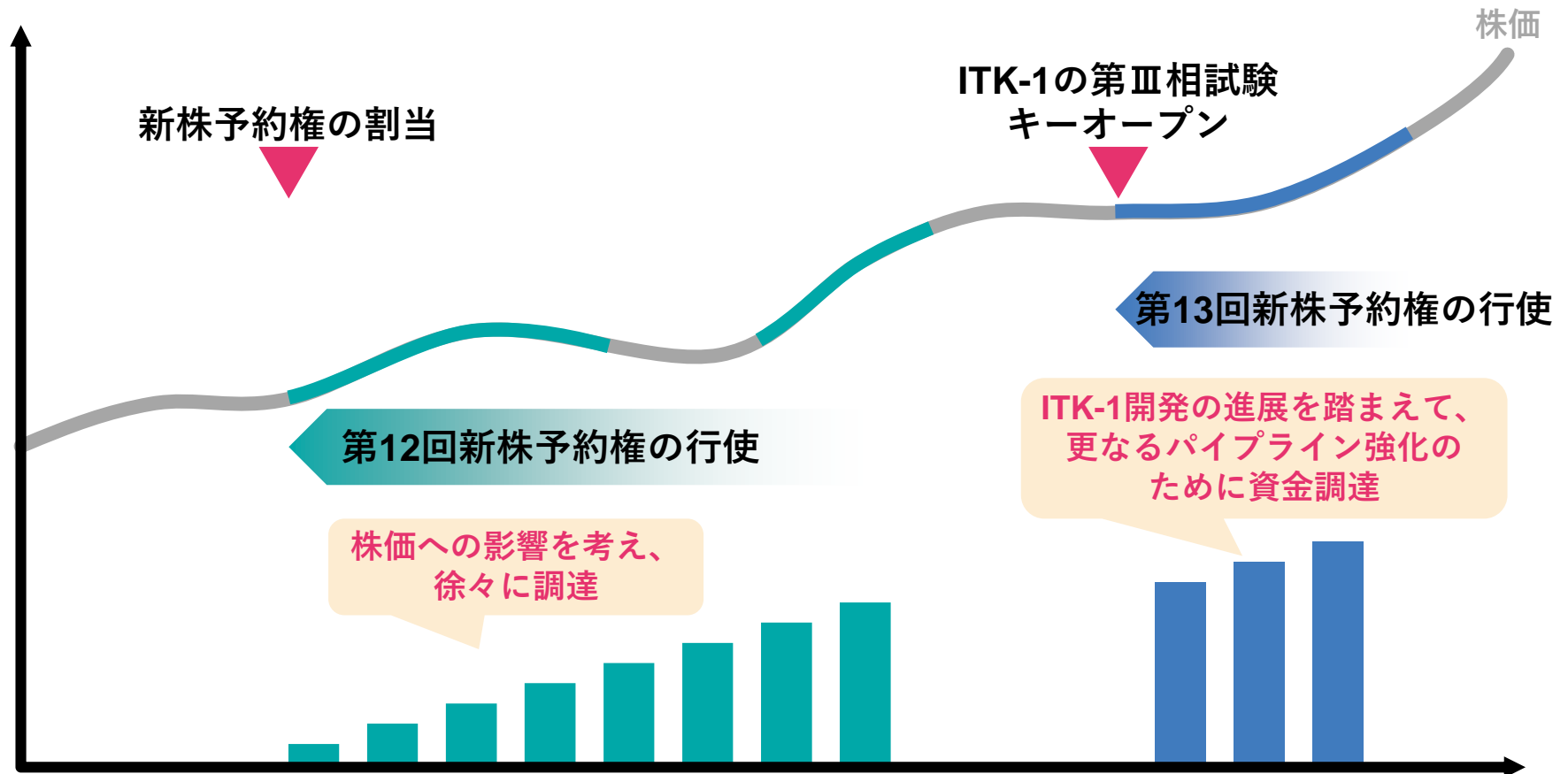
(1) 当初行使価額に発行株数を掛け合わせて算出

(2) 発行株数は新株予約権が全て行使された場合、潜在希薄化率は発行株数の発行済み株式総数 (2017年9月30日現在) に対する割合

(3) 1円未満は切上げ

新株予約権の行使に伴う資金調達のイメージ

- ITK-1の第Ⅲ相臨床試験が最終段階に入っており、次を担うパイプラインを強化し、事業ポートフォリオを拡充するステージへと移行
- ITK-1の第Ⅲ相臨床試験の結果を見定めた上で、次のステージへと進むための成長資金を調達することを企図して、第13回新株予約権の行使条件に一定の条件を付与



- ITK-1の第Ⅲ相臨床試験で、主要評価項目が達成されなかった場合、第13回新株予約権は行使されません。
- 上図はイメージであり、実際の当社株価の推移や調達額を予想若しくは保証するものではありません。